

July 5, 2019

**【前日の為替概況】ドル円、小幅反発 米独立記念日の休場で値幅は極めて狭い**

4日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小幅に反発。終値は107.82円と前日NY終値(107.81円)と比べて1銭程度のドル高水準だった。米国市場が独立記念日で休場だったため、積極的な売買は見られず、107.80円前後での動きが続いた。結局1日を通しての値幅は13銭と極めて狭かった。

ユーロドルは4営業日ぶりに小反発。終値は1.1285ドルと前日NY終値(1.1278ドル)と比べて0.0007ドル程度のユーロ高水準だった。1.12ドル台後半でのみ合いに終始した。レーン・フィンランド中銀総裁が「現時点ではさらなる金融緩和が必要」と発言すると独長期金利の低下とともに1.1273ドルまで下押ししたものの、下値は限定的だった。

なお、トルコリラ(TRY)は堅調。国内インフレが改善されるなかでTRY買いが散見され、対ドルでは5.5853TRY、対円では19.27円までTRY高に振れた。カリン・トルコ大統領報道官が「ロシア製地对空ミサイル(S400)は間もなく到着し、稼働させる」と述べたものの、反応は乏しかった。

ユーロ円も4営業日ぶりに小反発。終値は121.67円と前日NY終値(121.60円)と比べて7銭程度のユーロ高水準だった。フィンランド中銀総裁による緩和示唆発言で121.54円と本日安値を付けたものの、売りは長続きしなかった。

**【本日の東京為替見通し】米雇用統計まで膠着か、減税で豪ドルの中期トレンドは変わるか**

本日の東京市場のドル円は、6月の米雇用統計を控えこう着状態となるか。昨日は、米国市場が独立記念日だったことで、欧州時間も含め市場参加者は敢えてリスクを傾ける状況ではなかった。本日も本邦の家計調査、景気動向指数速報値、欧州時間に独の製造業新規受注、仏から貿易収支や経常収支などの経済指標が発表されるが、これらの経済指標で市場が大きく動くとは考えにくい。トランプ米大統領をはじめ要人からの予期せぬ発言や、イランをはじめ中東などから事件でも起きない限りは昨日と同じレンジをなぞることになりそうだ。

また108.25円、108.00円、107.75円、107.50円、107.00円などの節目にオプションがあることも、ドル円の動きを狭める要因になるか。

ただし動意薄の中、本日はゴト一日(5・10日)ということで、東京仲値には神経質な動きになることには警戒したい。

なお、本日の米雇用統計は非農業部門雇用者数変化が+16万人、失業率は3.6%、平均時給は前月比で+0.3%、前年比では+3.2%が市場予想となっている。

ドル円以外では豪ドルの動きに注目したい。豪ドルは米中貿易戦争、連続2会合の利下げなどで上値が重かった。しかし豪与党・自由党は5月18日に行われた総選挙で、「まさか」の勝利を挙げたが、この時に公約をした大規模減税(1580億豪ドル)法案の可決に必要な、上院票が昨日集まった。豪準備銀行(RBA)も消費を刺激するために政府に行動を促していたが、今回の減税は政府と中央銀行の動きがマッチするかたちとなった。本日付の豪現地紙も今回のこの減税に対して、好意的な評価が多い。依然として米中間の争いが豪ドルの足を引っ張る可能性は否定できないが、豪国内が今後ポジティブになるきっかけにもなるかもしれない。

**【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間****<国内>**

- 08:30 ◇ 5月家計調査(消費支出、予想:前年比1.6%)
- 08:50 ◇ 6月外貨準備高
- 14:00 ◇ 5月景気動向指数速報値(予想:先行95.4/一致103.1)

**<海外>**

- 15:00 ◎ 5月独製造業新規受注(予想:前月比▲0.1%/前年同月比▲6.2%)

- 15:45 ◇ 5月仏貿易収支（予想：49.50億ユーロの赤字）
- 15:45 ◇ 5月仏経常収支
- 16:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 16:15 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演
- 21:30 ☆ 6月カナダ雇用統計（予想：新規雇用者数変化1万人／失業率5.5%）
- 21:30 ☆ 6月米雇用統計（予想：非農業部門雇用者数変化16万人／失業率3.6%／平均時給、前月比0.3%／前年比3.2%）
- 23:00 ◇ 6月カナダ Ivey 購買部協会景気指数（予想：55.0）
- 7日 ギリシャ総選挙

8日

- 08:50 ◎ 5月国際収支速報
- 08:50 ◎ 5月機械受注
- 09:30 ◎ 黒田東彦日銀総裁、あいさつ（支店長会議）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

4 日 16:07 中国外務省報道官

「中国が貿易戦争で為替操作を行うことはない」

4 日 19:45 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁

「ユーロ圏の経済成長には、下方リスクが高まりつつある」

「ユーロ圏のリスク抑制のため、影の銀行への規制が必要」

4 日 22:05 レーン・フィンランド銀行(中央銀行)総裁

「ECB は必要ならばさらなる行動の用意がある」

「ECB は長期に渡る景気低迷のための準備をすべき」

「量的緩和の限界についてはある程度の柔軟性を見込んでいる」

「経済やインフレの見通しが改善されるまで、現時点ではさらなる金融緩和が必要」

4 日 23:34 トリア伊財務相

「今年の経済成長率はゼロに近い」

「現在の支出を削減することで 2020 年の付加価値税(VAT)引き上げを回避するだろう」

「2020 年の赤字目標は下期の経済成長がベースとなっている」

5 日 00:18 南アフリカ財務省

「中銀の独立性を尊重する」

5 日 00:36 イラン外務省報道官

「英国による石油タンカー拿捕は違法であり、イラン政府は認めない」

「英国の破滅的な行動は湾岸地域の緊張を高める」

5 日 01:52 ペスコブ露大統領報道官

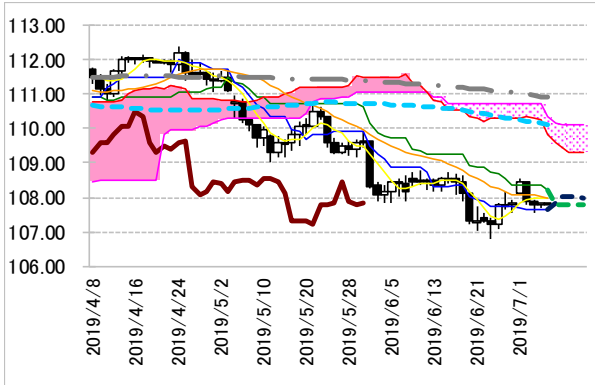
「シリアに関する露・トルコ・イランでの 3 カ国サミットをトルコで 8 月中旬に開催する」

5 日 01:57 カリン・トルコ大統領報道官

「ロシア製地对空ミサイル(S400)は間もなく到着し、稼働させる」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

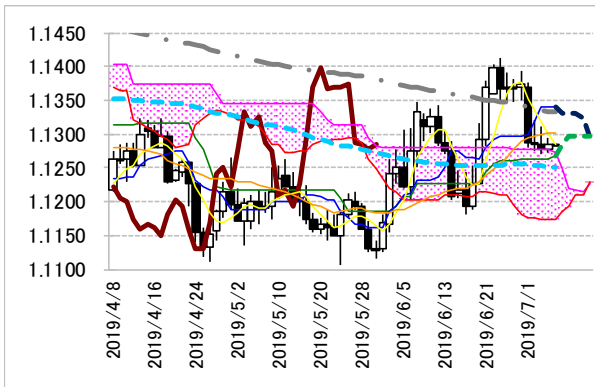


＜ドル円＝21日線付近が重ければ、基準線とともに下落へ＞

下影極小陽線引け。一目均衡表・転換線と基準線に挟まれた限定的なレンジにとどまった。

週末まで交差する両線のどちらの方向に追随するか見定める局面。現水準 107.66 円で横ばいから、週明けに上昇へ転じる転換線とともに水準を回復することを期待するが、108 円付近で低下中の 21 日移動平均線付近の重さをこなしにくいようであれば、基準線の低下を追うとの見方にシフトするべきだろう。

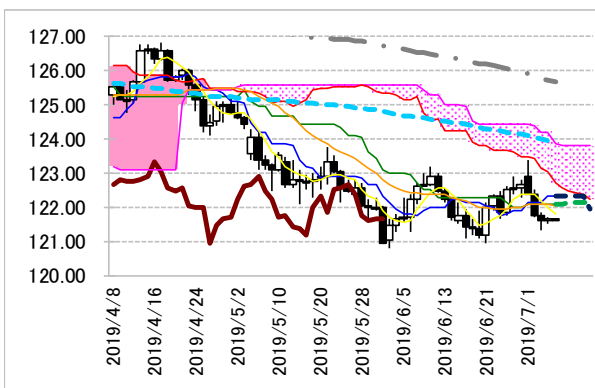
レジスタンス 2	108.80(6/11 高値)
レジスタンス 1	108.20(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	107.82
サポート 1	107.22(7/3-4 反発幅の下方倍返し)



＜ユーロドル＝転換・基準線が交差する水準への取れん予想＞

上影小陽線引け。一目均衡表・雲付近の底堅さを維持している。本日から雲の上限が低下し始めた。一方、見込み通り一目・基準線は上昇し、雲に代わるサポートになりそう。上昇が想定される基準線とともに相場水準を切り上げ、まずは同線と一目・転換線の交差が見込まれる 1.1290 ドル台へ取れんする展開を予想する。

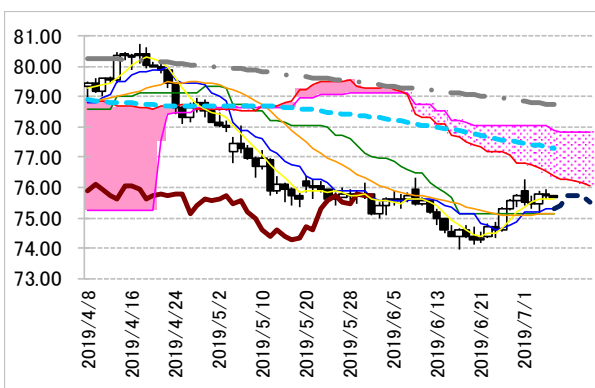
レジスタンス 1	1.1332(200日移動平均線)
前日終値	1.1285
サポート 1	1.1229(5/30-6/25 上昇幅の 61.8%押し)



＜ユーロ円＝転換線や雲など抵抗が多く、上伸容易ではない＞

小陽線引け。小動きで 121 円台を維持しているが、反発力も感じにくい。122 円台で低下中の 21 日移動平均線付近からの上値が重そう。同線をこなせば、122 円台で緩やかながら上昇傾向の一目均衡表・基準線（現在 122.07 円）付近を維持する底堅い推移が期待できる。だが、現水準 122.34 円で頭打ちが見込まれる一目・転換線や、低下中の一目・雲の下限が控えており、上伸は容易ではない。

レジスタンス 1	122.06(21日移動平均線)
前日終値	121.67
サポート 1	121.07(6/3・21 安値を通る上昇トレンドライン)



＜豪ドル円＝雲の下限が抵抗＞

上影小陰線引け。6 月 10 日高値 76.32 円、今週 1 日高値 76.29 円を前に伸び悩んでいる。これらの水準を抜けた勢い次第では、一目均衡表・雲の下限（現在 76.35 円）をこなす展開が期待できる。だが、低下中の雲の下限は相応の抵抗となりそう。雲の低下とともに相場が押し下げられ、雲に近づいたところで頭打ちとなる公算の転換線とともに失速する展開が懸念される。

レジスタンス 1	76.29(7/1 高値)
前日終値	75.71
サポート 1	75.13(7/3 安値)

